

---

# Last Basket

伊東 眞琴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

L a s t   B a s k e t

### 【Nコード】

N 0 6 7 4 Z

### 【作者名】

伊東 眞琴

### 【あらすじ】

バスケットを嫌っていた者。

バスケットを嫌う者。

バスケットを望む者。

それぞれの想いは交錯し、そこにバスケットが生まれた。

友情という名のバスケットが。

## ブローグ

「ガコンツ。」

終了間際の玲央の3Pシュート。

まるで計算されたかのように、ネットにかすることなく、リングを  
通り抜けた。

直後、湧き上がる歓声。

女子の黄色い声の割合が高いのは、あの頃から変わっていない。

そして鳴り響くブザー。

試合終了である。

しっかりと組んでいた両手には、汗がにじんでいた。

仲間たちが一斉にヒーローを称えに集まる。

人ごみにまみれ、ベンチにピースサインを向けるヒーロー、上杉玲央。

「あんたはホントのヒーローになったね、玲央。」



## プロローグ（後書き）

読んでいただき、本当にありがとうございました!!

これからもよろしくお願いいたします。

## 第一章

夏真っ盛りの体育館は、半端なく暑い。

そんな体育館のベンチに、仲良く並んで腰掛ける少女が2人。

一人は、うんざり、といった様子で整った顔をしかめ、その隣ではもう一人の少女が、

「キヤ——、また勝っちゃったあ——！」  
・・・叫んだ。

校内でも有名な美少女、如月 爛とその親友の櫻野 美羽である。

「ねっねっねっ、すごくない？」

美羽は俗に言うミハー！。

特に最近、校内でも屈指のイケメン率を誇り、その実力も認められ始めたバスケット部に夢中だそうだ。

「いつものことじゃない、玲央が決勝点決めるなんてさ。」

そんな美羽を冷たくあしらって、呑気にコーラを一口。

「でもでも、美少年で、成績よくて、バスケも上手いって完璧じゃん。」

「だから、なんなのさって話よ……。」

瞳をきらきらさせて語る美羽に、うんざりとした目を向ける蘭。

少女たちの話題の中心、上杉 玲央とは、今日の試合で決勝点を決めた、ヒーローのことである。

誰もが認める美少年で、成績はトップから落ちたことがない。

その上先生受けもよく、そのバスケの腕も群を抜いている。

稀に見る完璧人間であった。

でもだからって、試合のたびに黄色い声をあげるなんて・・・言っちゃ悪いけどバカらしい。

と思いつつ、試合を見に行くという美羽を見捨てずに毎回ついていくのだが・・・。

「なんつで、玲央様のよさがわからないのっ！？ホント、信じられない！！って、あ・・・。」

つるり。

汗と表面の水滴で、美羽の手を離れ傾きながら落下したコーラのボトル。

ドボドボッ。

黒い液体が、シャツにしみを作っていく。

「もー、ドジなんだから・・・。」

ぶつぶつと文句を言いながらも、それほど怒った様子はない。

「ゴメンゴメンっ!!」

慌てて手を合わせる美羽。

「大丈夫。洗ってくるから、先行ってて。」

「わかった・・・あっなんか飲む?」

申し訳なさそうに眉をさげる美羽。

「コーラ。もちろん、おごりねっ。」

そんな美羽に、蘭はにこりと笑いかけた。

なんだかんだで、蘭は美羽には甘い。

試合直後のスタンドを、器用に人並みを縫って歩く蘭。

このスタンドも、少し前までは全然人がいなかったのにな。

やっと人がまばらになった場所で、蘭は立ち止まった。

不意に差し込んだ感情は、寂しさ？

そんなことを考えていたからだろうか。

ガチャ。

7  
 •  
 •  
 •  
 •  
 •  
 •  
 ○  
 8

動きを完全に止めた蘭。

「玲央おつ！？」

トイレに絶叫が響いた。

## 第一章（後書き）

第二話です。

引き続き読んでいただき、本当にありがとうございます！……！  
嬉しい限りです。

あ、玲央は変態ではありません。決して。

少々事情がありまして……。

お話はまだまだ始まったばかり。

これからどうぞよろしくお願いいたします！……！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0674z/>

---

Last Basket

2011年12月2日21時51分発行